

社 報



「三方よし」

改善事例発表会

11/19(木)15:00より、清水建設関西支店 9階 大会議室にて、イングループ21「改善事例発表会」が開催されました。

当社が応募いたしました、「角締め金物の製作」は、見事、優秀賞に選定をいただきました。これで当社は8年連続で優秀賞をいただいたこととなります。



頭に菅笠、縞の道中合羽をはおり、肩には前後に振り分けた荷を下げた天秤棒。江戸時代から明治にかけて活躍した近江商人の典型的な行商スタイルである。



近江商人とは、近江国(現在の滋賀県)に本宅(本店、本家)を置き、他国へ行商して歩いた商人の総称で、大坂商人、伊勢商人と並ぶ日本三大商人のひとつ。「近江の千両天秤」ともいうように、天秤棒1本から財を築き、三都(江戸、大坂、京都)をはじめとする全国各地に進出し、豪商と呼ばれるまでに発展していった。

近江商人の経営哲学のひとつとして「三方よし」が広く知られている。「商売において売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそよい商売といえる」という

考え方だ。滋賀大学宇佐美名誉教授によれば、『売り手によし、買い手によし、世間によし』を示す、『三方よし』という表現は、近江商人の経営理念を表現するために後世に作られたものであるが、そのルーツは、伊藤忠商事の初代、伊藤忠兵衛が近江商人の先達に対する尊敬の思いを込めて発した『商売は菩薩の業(行)、商売道の尊さは、売り買い何れをも益し、世の不足をうずめ、御仏の心にかなうもの』という言葉にあると考えられる。」とのことである。

自らの利益のみを追求することをよしとせず、社会の幸せを願う、「三方よし」の精神は、現代の企業理念につながるものとして、伊藤忠をはじめ、多くの企業の経営理念の根幹となっている。

以上、伊藤忠商事のホームページから、抜粋しました。自分の利益ばかりを追いかけては、世間様に嫌われるということです。よく覚えておきたいものです。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

仕事にあせりは禁物

12月になり、街はクリスマスモードにあふれ、もうすぐに年末・お正月を迎えようとしています。帰省や旅行の準備に忙しい方もおられるでしょうし、何かと、せわしない時期になりました。

そうした雰囲気の中で、仕事をしていると、「あせり」のような気持が生まれてきます。

各現場とも年末にはここまでやって、切り良くお正月を迎えようと、工程も追い込みがかかるかもしれません。また、日暮れが早いのもこの季節の特徴です。

心の中に、「あせり」の気持ちが生まれると、失敗・事故につながります。今月も事故がありませんように。(拝)

2020年 安全成績

■現場災害 2020.1.1-12.10

休業災害	-----	0
不休災害	-----	0
物損災害	-----	0
その他	-----	0
合計	-----	0

■交通災害 2020.1.1-12.10

人身災害	-----	0
物損災害	-----	0
合計	-----	0